



Japan Inclusive Football Federation

ANNUAL REPORT 2019

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
年次報告書 2019



サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

日本の人口の約7%は障がい者です。
その障がいは多様で、
ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、
サッカーを心から楽しめる環境を。
社会にある“障害”を超えていく
きっかけづくりも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、
日本障がい者サッカー連盟で活動しています。



CONTENTS

- 03 会長あいさつ
- TOPICS 01
- 04 JFAと協働し、全国9地域で
障がい者サッカー連携会議を初開催
- TOPICS 02
- 06 共生社会実現に向けた取り組みを評価
設立4年目にして2つの賞を受賞
- TOPICS 03
- 07 新たな教育・研修コンテンツを
開発し提供を開始
- 08 2019年度事業報告
- 10 7競技団体の日本代表・全国大会結果2019
- 11 2020年度事業計画
- 12 JIFFパートナー制度
- 13 パートナー／支援団体／助成団体一覧
- 14 組織概要
- 15 財務報告



本連盟が設立され5年目を迎えました。新型コロナウイルスの影響によりスポーツ界を取り巻く環境は大きく変化しています。私たちは新しい生活様式のなかでスポーツのある日常を取り戻し、活動を積み重ねていくことで共生社会の実現へと前進していきます。

インクルーシブな場づくり

設立初年度から毎年開催している「インクルーシブフットボールフェスタ」は4回目を迎えました。延期となった広島県（2018年度に続く2回目）、茨城県（初）での開催は今年度を予定しており、パートナー企業や地元企業・団体の協力を得て、全国へと広がっています。

地域連携

2019年度から新たに「9地域障がい者サッカー連携会議」を開始しました。7つの障がい者サッカー団体、地元の障がい者サッカーチーム、都道府県サッカー協会、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ等の関係者が全国9地域ごとに集まり、障がい者サッカーネットワークの構築と各地域における障がい者サッカー活動での連携を進めています。

指導者連携

全国の公益財団法人日本サッカー協会（JFA）有資格指導者の誰もが障がい児・者を指導できる（している）環境の実現を目指し、2018年度からJIFF指導者登録制度を運用しています。さらに選手登録・チーム登録制度の整備を進めることで、連携の強化をはかります。

サッカーから 共生社会の実現を

日本障がい者サッカー連盟 会長
北澤豪



統一日本代表ユニフォーム

2017年度に団体ごとに異なる日本代表チームのユニフォームを統一しました。2019年度は国際大会も多く、統一ユニフォームを着た日本代表が各地で奮闘しました。電動車椅子サッカー日本代表はアジア太平洋オセアニア選手権で準優勝し、ワールドカップ出場権を獲得。ブラインドサッカー日本代表はアジア選手権で3位となりました。デフフットサルはワールドカップが開催され、女子日本代表が過去最高位となる5位、男子日本代表が10位で

した。知的障がい者フットサル日本代表は唯一の国際大会で6位、ロービジョンフットサル日本代表は世界選手権で7位、CPサッカー日本代表はワールドカップで過去最高位に並ぶ13位の成績を残しました。

7つの障がい者サッカーは着実に進歩しています。JFA・関連団体との連携、スポーツ界での連携をさらに深め、さらなる普及・発展に努めてまいります。今後とも、益々のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



TOPICS

JFAと協働し、全国9地域で障がい者サッカー連携会議を初開催

2019年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」を受託

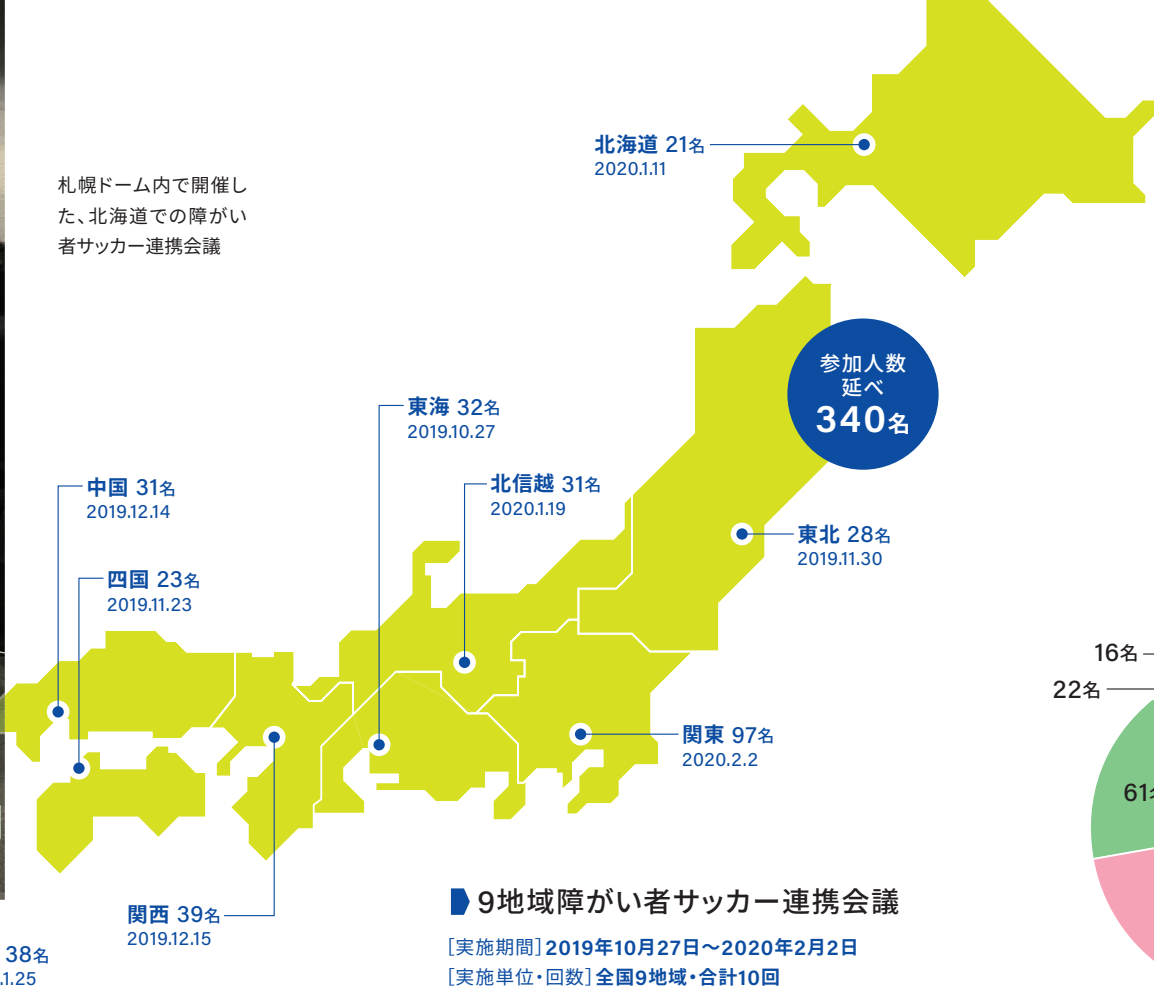
一般社団法人日本障がい者サッカー連盟（以下、JIFF）は、2019年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」を受託し、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境づくりを推進するため、大きく2つの事業を実施しました。

1つは「障がい者サッカー7競技団体のクラブチームへのアンケート調査」です。障がい者サッカー団体を対象とした支援のニーズ調査および体制整備に係る助言、同団体支援への理解の促進を図るための情報提供を行うことを目的として実施。調査対象

269チーム中、132チームから回答を得ました。

もう1つは「9地域障がい者サッカー連携会議（以下、地域連携会議）」です。公益財団法人日本サッカー協会（以下、JFA）と協働し、各サッカー団体と障がい者サッカー団体間の連携を図ることを目的に、全国9地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）で実施。各地域で障がい者サッカー7競技団体の地域担当者、地元の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、JリーグクラブおよびJリーグ百年構想クラブの関係者等が初めて集まり、全国

札幌ドーム内で開催した、北海道での障がい者サッカー連携会議



9地域障がい者サッカー連携会議

【実施期間】2019年10月27日～2020年2月2日
【実施単位・回数】全国9地域・合計10回

で延べ340名が参加しました。

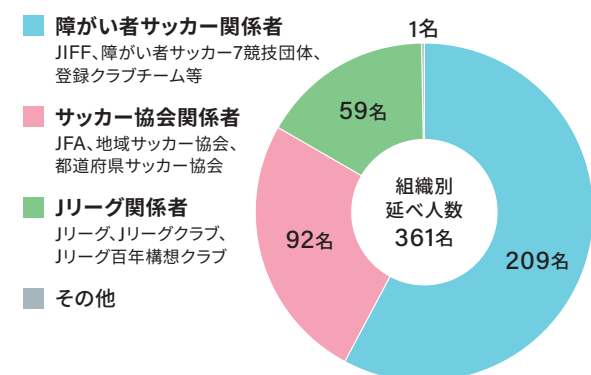
JIFFは、本事業から3つの成果を得ました。1つ目は「障がい者サッカーネットワークの構築」です。これまで、各地域で障がい者サッカーの団体・クラブと各都道府県サッカー協会やJリーグクラブが関わる機会は、ほとんどありませんでした。今回の地域連携会議により、各組織の担当者同士が繋がり、互いの状況を知ることができました。

2つ目は「全国の好事例・先進事例の把握」です。各地域で連携事例があっても、これまでは把握が困難でした。今回、全国の地域連携を推進する組織または会議帯の状況と、継続的な支援事例等を把握することができました。

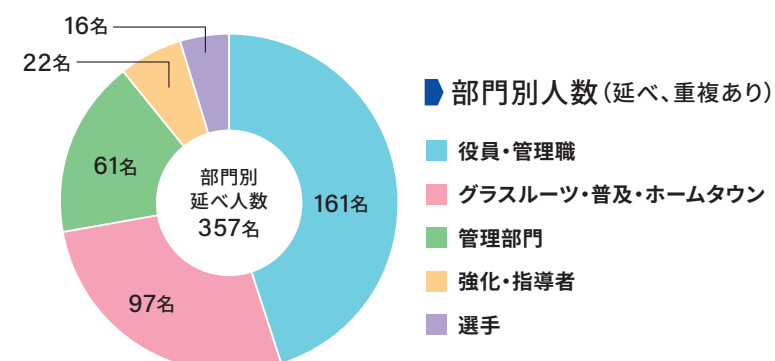
3つ目は「障がい者サッカー7競技団体の共通課題の抽出」です。これまで個々に抱えていた課題が共有され、共通課題を整理することができました。

本事業を通して、各サッカー団体と障がい者サッカー団体間の連携として「連携機会の創出」と「情報共有の場」が実現しました。今後は「連携の活用」と「活動創出の場」へと発展するよう、継続して実施し障がい者サッカー団体の連携および体制整備に向けた事業を展開していきます。（左図参照）

組織別人数（延べ、重複あり）



部門別人数（延べ、重複あり）



地域連携の事例としてのインクルーシブフットボールフェスタ

地域におけるインクルーシブな場づくりの事例として、JIFFが推進する「インクルーシブフットボールフェスタ」があります。障がい児者と健常児者が一緒にサッカーを楽しむ心のバリアを取り除くイベントで、JIFFは毎年12月に都内で開催。在京のJリーグ、Fリーグ、なでしこリーグの各クラブに協力いただき、小学生対象のまぜこぜサッカーを実施。他に誰でも参加できるウォーキングサッカーや障がい者サッカー体験等も。2018年度には広島県で、地元企業の協賛やJリーグクラブの協力を得て初開催。全国展開を目指しています。



紹介動画

左) ショート版 (3分26秒)
https://youtu.be/Y_s2NSF7flo
右) ロング版 (6分15秒)
<https://youtu.be/dxqFq6q8Sxl>

共生社会実現に向けた取り組みを評価 設立4年目にして2つの賞を受賞

02

設立4年目を迎えた2019年度、JIFFは2つの賞をいただきました。いずれもサッカーを通じた社会貢献活動への表彰であり、一つはアジアサッカー連盟(以下、AFC)より、もう一つは公益財団法人日本財団より受賞しました。日ごろよりJIFFの活動にご支援、ご協力いただいている皆さまへ、あらためて感謝申し上げます。

「AFC DREAM ASIA AWARDS」NGOカテゴリーの ゴールドを受賞

2019年10月30日、アジアでのサッカーを通じた社会貢献活動を表彰する「AFC DREAM ASIA AWARDS 2019」がマレーシアで開催され、JIFFがNGOカテゴリーのゴールドを受賞しました。AFCは以下のように述べています。

「JIFFはサッカーを通じて共生社会の創造を目指しています。パートナーシップ制度を採用し、7つの障がい者サッカー競技団体と協力し、国内の障がい者関連団体と連携してダイバーシティ&インクルージョンの重要性をさらに強調しています。そしてインクルーシブフットボールフェスタの開催、バルサ財団と連携した指導者向け講習会の実施、手話通訳費用補助制度の運用など、さまざまな魅力的な事業を行いました。」

JIFF専務理事・松田薫二

受賞コメント

7つの障がい者サッカー競技団体と一緒に取り組んできた活動がアジアの中で認められ、ゴールドに選ばれたことを誇りに思います。これまで支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。社会における障がい者をとりまく環境については、まだまだ多くの課題を抱えていますが、引き続きサッカーを通じ、共生社会の実現に向けて活動していきたいと思います。



トロフィーを手にスピーチ
するJIFF会長・北澤
(写真提供:日本財団)

「HEROs OF THE YEAR 2019」 を受賞

日本財団がスポーツの力を活用して社会貢献活動を促進すること、社会課題の解決を加速させてソーシャルイノベーションの輪を広げていくことなどを目的として主催する「HEROs AWARD 2019」。2019年12月9日に東京都内でその表彰式が開催され、JIFFが「HEROs OF THE YEAR 2019」に選出されました。

JIFF会長・北澤豪

受賞コメント

たくさんの障がい者の方が街に出て活動している姿を目にすることがここ最近多くなってきており、ユニセフの活動やパラアスリートの活躍が勇気や刺激となって、少しずつこの社会が変わってきているのではないかと感じています。我々は、7つの競技団体がバラバラでしたが、サッカーという共通したゴールに向かって、一緒になって取り組んでいます。健常者を含めてまぜこぜのサッカーを展開していくことによって共生社会の実現につながるのではないかと思います。サッカー、スポーツを通じてその実現に向かって頑張っていきたいです。

授賞式でトロフィーを授与されるJIFF専務理事・松田(写真中央)
(写真提供:AFC)

新たな教育・研修コンテンツを 開発し提供を開始

03

JIFFはサッカーを通じた共生社会の実現を目指し、主に障がいのない方々に向けて、障がい理解や多様性への気づきを得られるコンテンツを開発しています。小・中学校向けの教育プログラムと企業向けの研修プログラムについて、それぞれ障がい者サッカーの特性を生かし、事業化を進めています。

小・中学生を対象とした インクルーシブ教育 プログラムの開発

JIFFは、特に差別や偏見が生まれる前の小・中学生向けに教育的アプローチを行うことで、障がい者への心のバリアを取り除くため、「インクルーシブ教育プログラム」の開発を行っています。本プログラムでは、7つの障がい者サッカー選手との「対話」と「体験」を通じ、左図の4つの学びを提供します。

2019年度はトライアルとして、ロービジョンフットサル選手およびデフサッカー・デフフットサル選手によるプログラムを3つの小学校で実施。受講した子どもたちからは、「いろいろな工夫をしながら協力することが大切だとわかった」、「さまざまな人に配慮することを忘れないようにしたい」、「障がい者サッカーは障がいの種類によっていろいろな工夫があってすごい」、「はじめは(聴覚障がい者)と会話が少し大変だったけれど、一緒に遊ぶうちにコミュニケーションを取れるようになり、とても楽しかった」など、さまざまな声がありました。今後はオンラインでの実施も想定し、プログラム開発を進めていきます。

提供する学び

1

他者理解

他者との違いを受け入れ、個性を尊重し合う

2

チームワーク

協力と工夫で一緒に楽しむことを学ぶ

3

チャレンジ精神

困難に向き合い乗り越えようと挑戦する

4

障がい理解

障がい者を身近に感じ、同じところと違いを知る



無言語の中でも様々な工夫からチームワークが生まれていく

デフサッカー・フットサルを 活用した企業研修プログラムの開発

JIFFとJIFFパートナーである株式会社マネジメントソリューションズ(以下、MSOL)は共同で、“体験型”の企業向けチームビルディング研修プログラム「無言語コミュニケーション研修」の提供を2019年12月より開始しました。

この研修は、デフサッカーまたはデフフットサル競技者(監督・コーチ・選手)が講師またはサポーターを務め、言語を使わないコミュニケーションでグループワークを行う体験型研修です。JIFF 加盟団体で国内におけるデフサッカーおよびフットサルを統括する一般社団法人日本ろう者サッカー協会にJIFFおよびマネジメント研修のノウハウを持つMSOLが協力することで開発されました。

研修概要

デフサッカー／デフフットサル競技者(監督・コーチ・選手)を講師またはサポーターとし、言語を使わないコミュニケーションを、グループワークを通して実体験いただけます。それにより、情報を伝える側は“懸命に伝えようとする”、受け取る側は“注意深く相手の意図を読み取ろうとする”といった基本原則の重要性を実感することができます。お互いをよりよく知り、チーム内の見えない壁を取り除くことで成果を出すチームを作ることができます。

選手との対話や疑似体験を通じ、
多様な気づきを得ていく

2019年度は、これまでの事業の継続に加え、新たな取り組みとして大きく4つの事業を実施しました。JFAと協働して開催した「9地域障がい者サッカー連携会議」（スポーツ庁委託事業／詳細は本誌4～5頁参照）、スペインのバルサ財団と連携し開催した障がい者サッカー指導者向けの講習会、障がい者サッカーの特性を生かした教育プログラムおよび研修プログラムのコンテンツ開発、7競技団体と情報を自動連携させた公式サイトリニューアルによる情報発信力強化です。

また、これまでの活動が評価され、アジアサッカー連盟による「AFC DREAM ASIA AWARDS NGOカテゴリーゴールド」、日本財団による「HEROs OF THE YEAR 2019」を受賞しました。

組織基盤強化事業

JIFFパートナー制度

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、広くサッカーを通じて、障がい者と健常者が混ざり合う共生社会を築いていくためのパートナー制度により、パートナーシップ協定を更新しました。

※詳細は本誌12～13頁参照

JIFF補助金制度の運用

JIFFパートナーの協賛金等を原資とし、社員である障がい者サッカー7競技団体の組織基盤強化や障がい者サッカーの強化・普及のための活動を支援するためのJIFF補助金制度を運用し、総額14,084,000円を障がい者サッカー7競技団体へ補助しました。

コミュニケーション推進事業

障がい者サッカーに関する相談窓口の設置・運営

障がい者サッカーに関するさまざまな相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する競技団体と情報共有しながら対応。主に競技参加や「JIFF指導者登録制度」「手話通訳費用補助制度」についての問い合わせなどがありました。

【業務時間】平日 10:00～17:00

（新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年2月27日以降オフィスを閉鎖し、お問い合わせフォームで問い合わせを受付）

個人向け資金調達の充実

キフティング（寄付×リフティング）、ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みを構築しました。



障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施しました。

1. 障がい者サッカーに関する情報収集
2. 本連盟のウェブリニューアル **NEW**
3. JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
4. デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援



フットボール連携事業

JFA公認指導者の障がい者サッカー活動への参加促進

都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカー指導コース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、JIFFから障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進。2019年度は新規で20名が登録し、累計110名（延べ人数）となりました。

手話通訳費用補助制度の運用

日本サッカー協会または都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会／連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるよう、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用。2019年度は、東京都フットサル連盟が制度を活用し合計2つの講習会を行いました。

JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2019の開催

【開催日】2019年12月22日（日）第1部／第2部
【会場】フットサルステージ（東京都多摩市）

共生社会の実現に向け、障がい者も健常者も混ざり合ってサッカーを楽しむ「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2019」を開催しました。都内では2016年から4年連続での開催。プログラムは2018年度と同様に午前に「障がい者サッカー体験会」「キフティング（寄付×リフティング）」、午後に小学生向けの「まぜこぜサッカー」、だれでも参加の「まぜこぜスマイルウォーキングサッカー」、の4つです。新しい取り組みとして、午後のコンテンツにおいて例年以上に参加者同士の交流を深める仕掛けを取り入れました。また、本フェスタの地域展開として広島県（昨年度に続く2回目）、茨城県（初開催）で開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により延期となりました。



バルサ財団「FutbolNetメソッド」による障がい者サッカー指導者講習会の開催 **NEW**

【開催日】2019年5月25日（土）～26日（日）
【会場】帝京科学大学（東京都足立区）

スポーツを通して多様な価値観を学び社会に適応できる人材を増やしていくこと、指導者の指導力向上を行うことで障がい児・者のサッカーのプレー環境整備をしていくことを目的に、バルサ財団から指導者を招聘し障がい者サッカー指導者講習会を開催しました。

全国の障がい者サッカー指導者や障がい者サッカーに関心のある指導者等257名が応募し、抽選で73名が受講しました。



9地域障がい者サッカー連携会議の開催（スポーツ庁案件） **NEW**

2019年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」として実施しました。

※詳細は本誌4～5頁を参照

コンテンツ開発事業

小中学校向け教育プログラムの開発および実施（トライアル） **NEW**

小・中学校向けの教育プログラムの開発を行い、トライアルを実施しました。

【実施回数】12回（ロービジョンプログラム5回／デフプログラム7回）

※詳細は本誌7頁を参照

パートナー向け企業研修プログラムの実施および一般向けの販売

パートナー企業向けに企業研修プログラムを実施。また、株式会社マネジメントソリューションズと連携し、パートナー企業向けに実施してきたデフ企業研修プログラムを「無言語コミュニケーション研修」として2019年12月より一般企業向けの販売を開始しました。

日本代表

CPサッカー日本代表
日本CPサッカー協会



IFCPFワールドカップ2019 13位(過去最高位タイ)
2019.7.6～19／スペイン・セビリア

知的障がい者フットサル日本代表
日本知的障がい者サッカー連盟



INASグローバルゲームズ2019ブリスベン 6位
2019.10.12～19／オーストラリア・ブリスベン

電動車椅子サッカー日本代表
日本電動車椅子サッカー協会



APOカップ2019 準優勝(「第4回FIPFAワールドカップ」出場権獲得)
2019.10.23～25／オーストラリア・シドニー

ブラインドサッカー男子日本代表
日本ブラインドサッカー協会



IBSA ブラインドサッカーアジア選手権 2019 3位
2019.9.30～10.6／タイ・パタヤ

ロービジョンフットサル日本代表
日本ブラインドサッカー協会



IBSA ロービジョンフットサル世界選手権 2019 7位／フェアプレー賞
2019.12.7～14／トルコ・アンタルヤ

デフフットサル日本代表
日本ろう者サッカー協会



第4回世界デフフットサル選手権大会2019(デフフットサルワールドカップ2019)
男子 10位／女子 5位(過去最高位)
2019.11.9～16／スイス・ヴィンタートゥール

7競技団体の 日本代表・全国大会結果2019

2019年度(2019 年4月～2020年3月)の
JIFF加盟7競技団体が開催または参加した
主な大会をご紹介します。

全国大会

日本アンプティサッカー協会

● 第六回レオピン杯 Copa Amputee
優勝 FCアウボラーダ(3連覇達成)
2019.5.18～19／大阪府大阪市
第9回日本アンプティサッカー選手権大会2019
優勝 FC九州バイラオール(3連覇達成)
2019.11.2～3／神奈川県川崎市

日本CPサッカー協会

● 第19回CPサッカー全日本選手権大会
優勝 エスペランサ
2019.10.5～6／岐阜県岐阜市

日本ソーシャルフットボール協会

● 第3回ソーシャルフットボール全国大会
優勝 エストレージャあいち
2019.9.7～8／大阪府大阪市

日本知的障がい者サッカー連盟

● 第5回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権
(もうひとつの高校選手権2019)
優勝 愛知県立豊田高等特別支援学校
2020.2.15～16／静岡県藤枝市

日本電動車椅子サッカー協会

● パワーチェアーフットボールチャンピオンシップジャパン2019
優勝 マックス10(制限速度10km/h) Yokohama Crackers
優勝 パワフル6(制限速度6km/h) DKFBCディスカバリー
2019.11.2.～3／静岡県袋井市

日本ブラインドサッカー協会

● 第18回 アクサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権
優勝 埼玉T.Wings
2019.6.1～2、8～9、7.7／東京都調布市(予選ラウンド:東京都港区／福島県福島市)
第14回 ロービジョンフットサル日本選手権
優勝 Grande Tokyo
2019.6.16／埼玉県さいたま市
KPMGカップ ブラインドサッカークラブチーム選手権2020
優勝 パペレシアル品川
2020.2.8～9／神奈川県川崎市

日本ろう者サッカー協会

● 第16回全日本ろう者サッカー選手権大会
優勝 北海道
2019.10.26～27／北海道札幌市

2020年度 事業計画

組織基盤強化事業

7競技団体の組織基盤を強化し、活動をサポートする施策の実施

1 JIFFパートナー制度の充実

JIFFパートナー制度を効果的に運用し、パートナーを拡大することで、事務局運営基盤の強化および社員の活動サポートの原資を確保すると共に、パートナー企業が自社のイベントや社員教育等に障がい者サッカーのプログラムを有効活用できるようにします。

2 JIFF共同事務局の設置

組織基盤の強化および活動のサポートのため、JIFF事務局内に7競技団体の共同事務局を設置します。

3 登録制度の整備

JFAのサッカー・フットサルと障がい者サッカーが同じサッカーファミリーとして互に関わる機会を増やし、障がいの有無に関わらず共に活動できる環境をつくることを目的に、障がい者サッカー登録制度ワーキンググループを設置し登録制度の整備を行います。

4 各種会議・研修会の開催

7競技団体の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議や研修会を開催します。

コミュニケーション推進事業

障がい者サッカー全体の情報発信力を強化し、ファンや支援者を増やす施策の実施

1 障がい者サッカーに関する相談窓口

障がい者サッカーに関する様々な相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する競技団体と情報共有しながら、解決に導くように対応します。新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、問い合わせ受付時間を決定します。

2 障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施します。

- ①障がい者サッカーに関する情報収集
- ②本連盟のウェブサイトおよびSNSの活用による情報発信の強化
- ③JFAの広報ツール(公式サイト、JFAnews等)を通じた情報発信
- ④デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援

3 個人向け資金調達の充実

寄付コンテンツ「キフティング(寄付×リフティング)」、ポイントや古本などを通じた寄付等、対個人の支援の仕組みを構築します。

フットボール連携事業

サッカー界のリソース活用と連携施策の実施

1 JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

JFAまたは都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会(障がい者サッカーコース)の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進します。

2 手話通訳費用の補助制度の運用集および発信

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会／連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用します。

3 「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2020」の開催

共生社会の実現のため、障がい者も健常者も混ざり合ってサッカーを楽しむ「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2020」を開催します。

4 「インクルーシブフットボールフェスタ」の地域開催

全国各地にインクルーシブフットボールが普及されることを目指し、「インクルーシブフットボールフェスタ」を地域開催します。
・インクルーシブフットボールフェスタ広島2020
・インクルーシブフットボールフェスタ茨城 2020

5 9地域障がい者サッカー連携会議の開催

各地域において障がい者サッカーの連携を図るため、JFAとともに、全国9地域(北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)で「9地域障がい者サッカー連携会議」を開催します。
※2020年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」として実施。

6 バルサ財団「FutbolNetメソッド」による障がい者サッカー指導者講習会の開催

スポーツを通じて多様な価値観を学び、社会に適應できる人材を増やしていくこと、指導者の指導力向上を行うことで障がい児・者のサッカーのプレー環境整備をしていくことを目的に、スペインのバルサ財団から指導者を招聘し障がい者サッカー指導者講習会を開催します。

コンテンツ開発事業

共生社会実現へ向けロールモデルとなる事業の開発の実施

1 研修プログラムの開発・販売

企業向けの研修プログラムの開発および販売を行います。

2 教育プログラムの事業化

小・中学校向けのインクルーシブ教育プログラムの事業化を行います。

JIFF パートナー制度

JIFFでは、ご支援・ご協力いただいている法人企業のみなさまを「パートナー」と呼んでいます。一方的な支援になりがちな障がい者スポーツですが、JIFFとパートナー企業は、JIFFが理念に掲げる「共生社会」を共に創り上げていく仲間です。

2018年度より、障がい者について知る機会や障がい者サッカーを通じた多様性への気づきの場の創出を目指し、新たな契約形態でのJIFF パートナー企業向けに障がい者サッカーの体験・研修・講演のプログラムを実施しています。

研修プログラム



体験

障がい者サッカーを体験、または障がい者と一緒にプレーし、障がいへのイメージ等が変化することを目指します。



研修

競技や障がい特性を通じ、多様なコミュニケーションやチームワークの活性化等、応用的なテーマの実施が可能です。



講演

障がい者サッカーの選手や団体関係者等が、競技や障がい理解、障がい者を取り巻くスポーツ環境等をテーマに講演。

2019年度 JIFFパートナー／支援団体ロゴの主な掲載実績

7つの障がい者サッカー競技団体の全国大会やJIFFのイベント等において、JIFFパートナーロゴ入りの横断幕の掲示や、大会プログラム等への掲載をしております。



【上】パートナーおよび支援団体ロゴ入りの横断幕(2020年度版デザイン)
【右】大会プログラム等に掲載する紹介ページ(2020年度版デザイン)



- 2019.5 第六回レオピン杯 Copa Amputee (大阪府)
- 2019.6-7 第18回 アクサ プレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権(東京都、福島県)
- 2019.9 第3回ソーシャルフットボール全国大会(大阪府)
- 2019.10 第19回CPサッカー全日本選手権大会(岐阜県)
第16回全日本ろう者サッカー選手権大会(北海道)
- 2019.11 第9回日本アンプティサッカー選手権大会2019(神奈川県)
パワーチェアフットボールチャンピオンシップジャパン2019(静岡県)
- 2019.12 JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2019(東京都)
- 2020.2 KPMGカップ ブラインドサッカークラブチーム選手権2020(神奈川県)
第5回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権(静岡県)
ほか、全14件

2019年度 研修プログラム実施事例

社内におけるダイバーシティ&インクルージョンの浸透およびチームワーク強化を目的とした活用



コミュニケーション研修 [聴覚障がい]

グループワークでの言語を使わないコミュニケーション体験を通して、コミュニケーションの基本原則の重要性を実感するとともに、チーム内の見えない壁を取り除くなどチームワーク強化の場となりました。(本誌7頁参照)

チームビルディング研修 [視覚障がい]

「見えない」ことを通じた様々なコミュニケーション体験から、日常への気づきを得る場となりました。



社員と新卒内定者や社員のご家族の交流を目的とした活用

体験会「ブラインドサッカー」フットサルコートでブラインドサッカーを体験し、「見えないコミュニケーション」を通して交流しました。

パートナー企業／支援団体／助成団体一覧

※2020年3月末時点

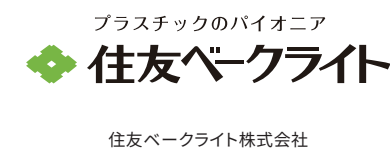
公式ユニフォームサプライヤー



支援団体



JIFFパートナー



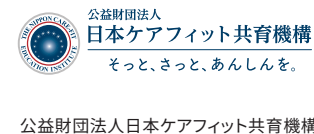
サプライサービspartner



メディアパートナー



アライアンスパートナー



助成団体



JIFFパートナー制度およびご支援について

JIFFパートナー制度や法人寄付、その他ご支援については、右記よりお問い合わせください。また、各種障がい者サッカー研修等の実施についても、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先
一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 事務局
TEL 03-3818-2030
MAIL jiff_info@jfa.or.jp
WEB <https://www.jiff.football/join/partner/>

組織概要

JIFFはJFAの関連団体で、JFAと協働し、
7つの障がい者サッカー団体の活動をサポートする中間支援組織です。

理念

広くサッカーを通じて、
障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、
一人ひとりの個性が尊重される
活力ある共生社会の創造に貢献する

ビジョン



普及

障がい者サッカーの普及に
努め、社会に根付いたもの
となることで、誰もが、いつ
でも、どこでもスポーツを楽し
める環境を創りあげる



強化

障がい者サッカーの強化に
努め、日本代表が世界で活躍
することで、人々に勇気と希
望と感動を与える



組織

健全な組織の構築に努め、
社会的責任を果たしていくこ
とで、障がい者サッカー競技
の価値を向上する

役割・機能



名称

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
Japan Inclusive Football Federation

設立

2016年4月1日

役員

※2020 年7月時点

会長	北澤 豪
副会長	井口 健司(特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会) 山木 譲(一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会)
専務理事	松田 薫二(公益財団法人 日本サッカー協会)
理事	斎藤 紘一(特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟) 佐々 毅(特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会) 神 一世子(一般社団法人 日本CPサッカー協会) 田中 賢二(一般社団法人 日本ろう者サッカー協会) 日比野(田中) 暢子(桐蔭横浜大学)
監事	前鼻 啓史(特定非営利活動法人 日本アンブティサッカー協会) 奥村 武博(公認会計士) 樽本 哲(弁護士)

社員構成

特定非営利活動法人 日本アンブティサッカー協会
一般社団法人 日本CP サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会
一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

所在地

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFA ハウス内

公式サイト

<https://www.jiff.football>

公式SNS

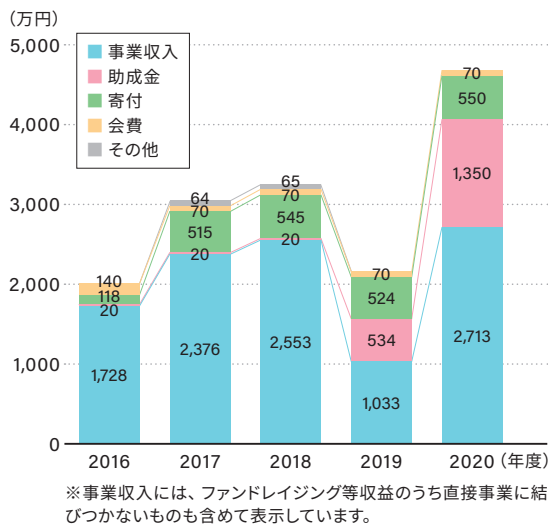
Facebook	https://www.facebook.com/jiff.football/
Twitter	https://twitter.com/JIFF_Football
Instagram	https://www.instagram.com/jiff_football/

障がい者サッカーに関する相談窓口 **03-3818-2031** (平日10:00~17:00)

財務報告

2019年度は、これまで実施してきた事業を組織
基盤強化事業、コミュニケーション推進事業、フット
ボール連携事業、コンテンツ開発事業に再編し、さら
に事業を拡大させるため人材やシステムに先行投
資をしました。税引前当期正味財産増減額2,468
万円は、前2018年度から繰り越された事業支出
1,077万円、会計方針の現金主義から発生主義へ
の変更による収入計上の翌2020年度への繰り越し

収入推移および計画

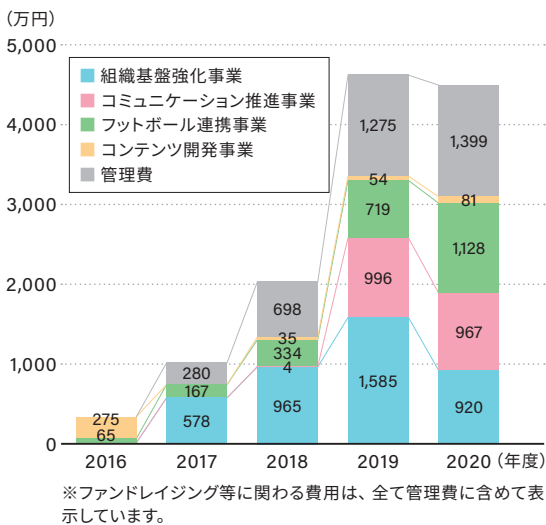


2,006万円を反映しています。

新型コロナウイルス感染症の影響としては、インク
ループフットボールフェスタ等が順延となり、それ
に関わる収入が2020年度に振り替えとなりました。

2020年度は、不透明な経済状況が予想されま
すが、パートナー制度の充実、助成金の活用、複業
者の登用等により資金と人材の充実をはかり、共
生社会の実現に向け事業を展開していきます。

事業別支出推移および計画



活動計算書

2019年4月1日～
2020年3月31日

(単位:円)			
科目			金額
経常収益	受取会費	正会員受取会費	700,000
	受取寄附金	受取寄附金	5,235,363
	受取助成金等	受取国庫助成金・受取民間助成金	5,340,654
	事業収益	フットボール連携事業収益	1,442,485
		コンテンツ開発事業収益	625,000
		ファンドレイジング等収益	8,265,153
	その他の収益		479
経常収益 計			21,609,134
経常費用	事業費	人件費	5,283,657
		その他経費	28,260,340
	管理費	人件費	5,992,375
		その他経費	6,758,837
経常費用 計			46,295,209
当期経常増減額			▲ 24,686,075
税引前当期正味財産増減額			▲ 24,686,075
法人税、住民税及び事業税			70,000
前期繰越正味財産額			48,838,242
次期繰越正味財産額			24,082,167

貸借対照表

2020年3月31日現在

(単位:円)

科目		金額	科目		金額		
資産の部	流動資産	現金預金	42,800,169	負債の部	流動負債	未払金	4,061,149
		立替金	196,200			未払法人税等	70,000
		未収入金	5,619,580			未払消費税等	223,300
						預り金	116,791
						前受金	3,074,208
						前受収益	16,988,334
	流動資産 計	48,615,949		流動負債 計	24,533,782		
資産の部 合計		48,615,949	負債の部 合計		24,533,782		
			正味財産の部	前期繰越正味財産額	48,838,242		
				当期正味財産増減額	▲ 24,756,075		
			正味財産の部 合計		24,082,167		
			負債及び正味財産 合計		48,615,949		